



防災 (昭和39年新潟地震災害救援派遣と耐震管)

昭和39年6月16日、新潟地震(M7.5)が発生しました。新潟市では石油タンク爆発による火災や、液状化による県営住宅の倒壊など多くの被害が発生し、名古屋市からも応急給水隊や復旧工作隊が派遣されました。「ビニール管を路上配管し共用蛇口を設置したり、現地で調達が困難な鋳鉄異形管をトラック2台分持参したりしたことが復旧のスピードアップに役立った」とは、当時復旧工作隊長を務めた西尾元名古屋市長の談。近年地震災害が多発していますが、名古屋市では配水管の新設・更新にあわせ、液状化など地震に強い耐震継手管を昭和52年から採用しています。しかし全域の配水管が耐震化されるには、まだ多くの年月と費用がかかります。



液状化による県営住宅の倒壊



耐震継手のカットモデル

名古屋市の歴代マンホールのふた

角型ふた

昭和22年前後から採用しました。特に道路幅員の狭い場所等で丸いマンホールの築造が困難な場所に四角いマンホールを築造し、角型のふたを設置しました(ふたの大きさは、66cm×66cmの正方形)。

